

(第 154 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2024 年 6 月 11 (水)	出席者 敬称略	西村二郎・山崎博・持田典秋・猪股勲・ 宮本公明・神田稔久
時間	15 時—16 時 50 分		
場所	かながわ県民センター		
技術課題	住民共助の実際と課題—新米自治会長の一年— (神田)		
内容	住民共助の実際と課題—新米自治会長の一年— 1. 町田市の概況 2. 町田市の自治会組織 3. W自治会の状況 4. W自治会の1年 5. 自治会活動の柱 6. 自治会活動の歴史と今 7. 世界の自治会活動 8. 自治会活動の課題 むすびに代えて		
発表者からのコメント	<p>1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災、2024年の能登半島地震等の時に見られた、落ち着いて秩序ある住民の行動は、日本独自のものとして称賛されているが、そこには日ごろからの強い自助・公助の基盤があった。</p> <p>翻って、現在の東京都、特に都市部においては、自治会加入率が極めて低く(50%を下回る)、公助の基盤が根底から失われるつつある。一旦、大きな災害に襲われた時に、東京都の住民はこれまでの各地で見られたような行動をとることができるであろうか？秩序ある落ち着いた行動は、隣人や自治体を信頼する基盤があってこそであり、現状では、逆に秩序無く避難所に殺到したり、援助物資を奪い合うことにならないであろうか？</p> <p>「絆」という美しい言葉やそれに基づく行動は、今や東京では失われていると言っても過言ではないように感じられる。</p> <p>しかし、行政は、この困った状態を認識しつつも有効な手立てが打てないため、自治会加入率の低下に歯止めをかけることが出来ていない。</p> <p>東京の郊外の街の小さな自治会の会長を務める中で、何が課題かを自問してみた。答えは見えていないが・・・。</p>		

<p>会員からのコメント</p>	<p>会員からのコメント (西村二郎)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 今回のプレゼンは、①少子高齢化に伴い「失われつつある街」の実態、②高齢層におけるDX化の困難性、という現代日本における大きな社会問題を浮き彫りにしたものである。視野の広い神田氏ならではの問題提起である。 * 町田市といえば、人工問題に関して独り勝ち状態の東京のベッドタウンである。その町田市ですら、このような状態にあるということは、地方、とくに、農村、漁村の荒廃振りは如何ばかりかと、背筋が寒くなる思いで、プレゼンを聴いた。一つで良いから、モデルとなる農業法人構想を提案し、実行する人が出て欲しいものである。 * 少子高齢化対策として即効性があるのは、高齢者の戦力化、DX化・自動化・省力化だろう。しかし、高齢者のデジタル離れの実態を河野デジタル相は御存知なのだろうか。 * 町田市の自治会はホームページを開設する能力を持っているとのこと。せめて、回覧板はメールに代えるべきだが、それすらできない。 * 一般消費者は不必要なバージョンアップによる使い勝手の悪さと、ウイルスの跋扈にウンザリしているのである。対策は考えられるだろう。例えば、地域毎にイントラネットを構築すれば、安全性も増し、使い易くなる筈である。 * マイナンバー制度は、原理的には、素晴らしい制度である。それを機能させるために、易しいDX化を推進しなければならない。 * 現行のノイマン型コンピュータではプログラムとデータを区別せずに書き込んでいるので、ウイルスの侵入が容易である。ROM化したBIOSの命令で、プログラムかデータかを判別させ、プログラムの変更を拒絶すれば、ウイルスフリーになるのではなからうか？ * 化学工学は石油化学に素晴らしい道具を提供した。電炉・AI電解は冶金屋さんが活躍した。フェイルセーフが必要な原発でも化学工学の存在感はなかった。工学会は顕在化した問題解決に対して解決のための道具を提供するだけでなく、問題を発見することも重要な役目である。化学工学には是非、その方向を向いて欲しい。以上 <p>(持田典秋)</p> <p>私は、今の場所に住んで間もなく50年を迎える。同じような年代の人たちが東京、横浜のベッドタウンとなって通勤していた時代が始まりだった。皆忙しい時を過ごし、近所付き合いも挨拶を交わす程度。自治会活動においては、ほとんど家人に任せ、それでも済んでいた。</p> <p>最近は一入暮らしの家が増え、あるいは誰もいなくなり空き家も散見される。しかし、中には家が売られ、新しく建て替えられて若い人たちが入居して来ている。朝の通学時の子供たちの声も聞かれるようになったのは、喜ばしいことである。</p> <p>しかし、自治会はホームページもなく、相変わらず古めかしい回覧板の世界である。ただ近所には、自治会非加入者はいないようだ。</p> <p>私個人としては、NPOの理事長を16年間続けてきたが、この4月に交代した。子供たちの理科教室と地球環境問題にささやかに取り組んできたが、周りに助けられたからできたことで、おそらく神田さんの様には苦労しないで済んできたと思う。</p> <p>それにしても、神田さんの以前聞かせて貰った学校支援プロジェクトへの取り組み、それに今回の自治会長とは、その気持ちと行動力に全く頭が下がる思いである。</p> <p>(大谷 宏)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 体調不良のため、今回の神田さんの発表を直接お聞きすることは出来ませんでした。自治会活動という問題を通して、現代日本社会の直面している深刻な問題の一端を鋭く提起されたのだと理解し、高く評価しております。 * 実は、私も、今から20年以上前に横浜市港南区で一軒家に棲んでいた頃、その地域の自治会長を1年間務めた経験があります。あの頃、あの地域では住民の98%程の家庭が、いやいやながらも、自治会活動に参加してくれていたのですが、新しく転居して来た数家族の人達は、自治会活動の意義を説明し説得したのですが、頑として自治会への参
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

加を拒否されてしまいました。勿論、自治会全体にとっては数件の不参加者がいてもその事自体では、自治会の年間活動にそれほど大きな支障はなかったのですが、しかし、次のような深刻な問題が発生しました。

① 当時、その自治会地域では、夜間の街灯の電気代を自治会が支払いをしていました。それは、当然、自治会員が毎月納めてくれる自治会費からの支払いなのです。当然、「自治会に参加してくれない人の家の前の街灯は消してしまえ」という議論もありました。ある意味では、正当な主張です。しかし、自治会に参加してくれないからと言ってその家の前の街灯を消してしまと、その辺りは暗くなってしまい、もしかしたら、犯罪の発生しやすい場所になってしまうのです。色々議論しましたが、自治会費を払ってくれない人の家の前の街灯についても自治会費からお金を支払うことにしました。

② 当時、その自治会地域では選挙公報とかその他区役所から各家庭に配布を依頼されていたパンフレットや資料を自治会員が担当を決めて各家庭に配布していました。本件についても、自治会費を納めてくれない人には、「パンフレット、資料の配布をしなくても良いか？」との問題が発生しました。本件についても自治会員の間で色々議論しましたが、横浜市や港南区の公報や資料などを配布しない訳にはいかない、との結論に達しました。

* 上記問題は、結局、自治会会員に次のようなメッセージを伝えることになってしまったのです。「自治会などの面倒くさい会に参加して、自治会費を払ったり、うっとおしい自治会活動などに参加しなくても、十分にメリットだけは享受出来る」というメッセージです。

* 私は、港南区港南台の自自会活動がその後どうなっているかを知りません。しかし、上記の様な問題も絡み、現在の自治会への参加率は相当低下しているのではないかと想像します。そして、このようなことは日本全国のあちこちの地域で起こっているだろうとも想像しています。

* 日本の社会は全体的に、最近、ひどく劣化して来ていると思います。例えば、最近「カスタマーハラスメント」ということがマスコミで大きく取り上げられていて、どこまでが「カスタム」ではなく、「どこからがカスタムか」を法律で決めようとしています。どうしてこんなことが起こるのでしょう？すべて、日本社会の変化にあると思います。こんな劣化してしまった日本社会にあっては、「公序、自助の議論」などは、残念ながら、なかなか理解され難くなっているのではないのでしょうか！

(宮本公明)

神田さんのお話は、全く私の住んでいる地域の問題を同じだと思いながら拝聴しました。私の住んでいる住宅地は倒産した会社の敷地にデベロッパーが建てた150軒ほどの家が立ち並ぶ住宅地で、すでに40年ほどがたっています。小田原付近で戸建て住宅が買える人の多くが富士フィルム、日立製作所、富士ゼロックスの社員だったので、互いに知っている家が何軒もあるという状況が神田さんのケースと違うかもしれません。また、入居者の年齢がほぼベビーブーマーだったので、子ども会活動が盛んで、ママ友ネットワークがあることも特徴です。

そんな状況なので、自治会参加率は98%程度で、参加非参加で問題がこじれることはあまりありませんでした。また、小田原市がしの広報配布と自治会に委託しているので、非会員は市役所までとりにいかないといけないといった不便さや家庭ゴミの収集ステーションが使用できない(使用者は1年ごとに1ヶ月間8回の掃除が回ってくる)というハンディーがあるのも一因かと思えます。

そんななかで、最近の問題は夫婦の片方が他界されるケースが多く、おばあちゃんが多いことと、子どもはもっと便のよい横浜近郊に引っ越してしまうことです。このため、独居老人が増えています。自治会では、健康サークルや公園の花壇活動、ペタンク協議会などをやっていますが、昔の賑わいをとりもどすことはできていません。

それでも、この状況から必然かもしれませんが、今年の自治会長は女性です。また、小田原市でみると他にも数名の女性会長がおられ、あらたなトレンドになるかもしれません。この

流れが広がれば、自治会が防災や福祉の面で頼り甲斐のあるものになるのではとおもいます。

(山崎 博)

- いざという時、かつて日本の文化であった近所同士がお互いに助け合う“共助”は、もはや首都圏では期待できない、との問題指摘が今回の検討テーマでした。地方ではまだ“互助”の文化が残っていると思いますが、東京、横浜などの首都圏では近所付き合いも薄れ、互いに顔を合わす機会も減り、“互助”の文化は失われていると思います。
- 能登半島地震では道路が分断され、情報や交通が外部と遮断されて多くの集落が3週間近く孤立しました。報道によれば、集落内で助け合ってどうにか危機を切り抜けたと報じています。また、仕事の再開に向けての“共助”のコミュニティーが機能し始めているようです。一方、地方は若者の流出と住民の高齢化が進み過疎化が進んでいます。
- 私が住んでいる横浜市港南区の一角の自治会は約 600 軒で既に 45 年以上続いています。この地域は道路も広く公園の配置などが、大手デベロッパーによりよく考えられたまちづくりだと思っていますが、電線が地下化されていれば良かったのですが。また、巡回バスの計画もありましたが、一部の住人が騒音を理由に反対し実現しませんでした。路線バスから離れた住人は坂も多く足が不便です。
- 自治会は会長、委員、組長、班長で運営され、会長は推薦と立候補、委員以下は持ち回り、年間のイベントも決まっており、夏の盆踊り、ゴミ回収、防災訓練、公園の草取り、防犯パトロールなどの一般的な活動です。
- 自治会には殆ど全ての世帯が加入しています。自治会費は月額 300 円/軒となっており、年会費として徴収されます。その他に、日本赤十字募金、赤い羽根共同募金などが集められます。毎月、地域の新聞を広報委員が作成し、班長を通して回覧されます。班長は近所の 20 軒ほどを担当します。
- 自治会では、建築協定を定めており、商業施設を建てられる地域や居住専用の地域などに分けて建設規則を決めており、敷地を細分化して家を建てることなどを禁じています。現 600 軒のうち約半数が2世帯住宅などを含め新しい家に建て替えられています。建て替えでは大きな家を建てる傾向にあり、その陰になり、それまで見えた富士山が2階のベランダから眺望できなくなったという問題も近所の何軒かで生じています。残念ながら、建築協定には富士山の眺望権までの規則は入っていませんでした。
- 最近は世帯の高齢化が進み、高齢者の一人住まいも増え、班長をパスさせて欲しいという家が何軒か出てきました。あと 10 年もしたら更に高齢化が進みどうになってしまうのか心配です。一方で、私の家の前が幼稚園児童の送迎バスの発着場所になっており、毎朝、多くの幼稚園生と若い父兄を見ると、いつの間にか確実に住人の世代交代が起こっているのを実感します。

(猪股 勲)

今回の神田さんのお話、自治会長を務めている事自体に感銘を受けました。確かに、小生の家も自治会には所属しており、月額 200 円の自治会費を年に一度支払っており、昔ながらの回覧板は回ってくるものの、その内容や、活動状況には、ほとんど無関心に、40 年以上過ごしております。

都内の自治会が同じかどうか分かりませんが、自治会の集まりなども、ごく少数の住民が参加して色んな事項が決められており、不謹慎ながら、一度も参加したことがありません。一旦有事の時に、近隣地域での協力した活動が必要になった時どうすれば良いのかといった事を考えさせられた今回のテーマでした。

幹事会 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・新学会本部は茗荷谷駅から後楽園方面へ徒歩でいける ・公開講座は20名の参加を得て6/8～7/6で開催 ・化学工学入門講座は40名の申し込みで、6/19～7/3で開催 ・代表から交通費補助の削減についての検討依頼があった
今後の 予定	<p>今後の研究会の開催方式については、リアル方式での参加が難しい会員が増える中で、5月と10月の見学会を除き、7月と12月(あるいは1月)をリアル方式での開催とし、その他についてはリモート方式にします。また、リアル方式の研究会の後は、納涼会・忘年会(あるいは新年会)を開催することとします。</p> <p style="margin-left: 40px;">7月 持田氏 リモート方式 8月 山崎氏 リアル方式 709 会議室 9月 猪股氏 リモート方式 10月 見学会 11月 西村氏 リモート方式 12月 宮本氏 リアル方式 1月 大谷氏 リモート方式 2月 松村氏 リモート方式 3月 神田氏 リモート方式</p>
次回日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 2024年7月9(火) 15時～17時 2. 方式 リモート方式 3. 技術課題 持田氏提供
次々回 日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 2024年8月13(火) 15時～17時 2. 方式 リアル方式 3. 技術課題 山崎氏提供